

## 予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算      支出科目    款：農林水産業費    項：農業費    目：農業研究費

### 事業名    中山間農業研究所県単試験調査費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部    中山間農業研究所    電話番号：0577-73-2029

E-mail：c24402@pref.gifu.lg.jp

**1    事業費            10,952千円（前年度予算額：11,528千円）**

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	11,528	0	0	0	773	0	8,233	0	2,522
要求額	10,952	0	0	0	773	0	7,652	0	2,527
決定額	10,952	0	0	0	773	0	7,652	0	2,527

## 2    要求内容

### (1) 要求の趣旨（現状と課題）

県民の生命と健康を守り、環境保全に貢献する魅力ある産業として、中山間地農業を維持・発展させるため、生産現場から寄せられる短期的あるいは緊急的なニーズに的確に応えた研究開発を行う。

### (2) 事業内容

(継続)

- ①中山間地域の新たな花きブランドの開発
- ②夏ホウレンソウの難防除雑草の総合防除技術開発
- ③中山間地域における果菜類の安定生産、省力化技術の開発
- ④クリにおける凍害発生要因の解明と対策技術の開発
- ⑤飛騨地域に自生する薬用植物の有用成分に注目した選抜と栽培技術開発  
(新規)
- ①水稲の多様なニーズに応えるオリジナル新品種の育成
- ②モモ、リンゴ等の生産安定技術開発と品種選定
- ③クリ産地維持・拡大に向けた新品種育成および安定生産技術の開発

(3) 県負担・補助率の考え方

なし

(4) 類似事業の有無

なし

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	531	現地調査、研究に関する協議等
需用費	8,080	栽培資材、調査器具、資材等消耗品の購入、農機具燃料費等
役務費	160	電話代、切手代などの通信運搬費及び検査手数料等
使用料及び賃借料	75	機械の借上料等
備品購入費	1,930	機械器具の購入
負担金、補助金等	176	専門学会への参加費等
合計	10,952	

**決定額の考え方**

「途中経過」または「予算案の決定（知事査定後）」  
の公開の際に記載します。

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

ぎふ農業・農村基本計画（令和3～7年度）

第6章 将来像達成に向けた取り組み

1 基本方針ごとの重点施策と主な取り組み

(3) ぎふ農畜水産物のブランド展開

⑦ブランド展開を支える新品目の創出と生産流通技術の開発

2 中山間地域を守り育てる対策

# 事業評価調書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか  
 本県中山間地農業の生産現場において解決すべき問題のうち、主として短期的あるいは緊急的に解決すべき課題について研究を行い、成果を迅速に普及することで中山間地農業の生産性、ブランド力等の向上を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R)	達成率
技術移転の推進	—	8	8	10	10	80%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	作物、野菜、花き、果樹分野の継続5課題に加え、野菜、花き、果樹分野で新規に3課題（うち2課題は外部資金）の研究開発に取り組んだ。その中で得られた成果を試験研究成果普及カード、研究報告として計3件を公表、鉢花新品種3件を品種登録申請した。
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<p>・ 事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 2	産地間競争の激化、諸資材の高騰など、産地を取り巻く情勢が厳しさを増す中で、地域（農業生産現場）に密着した問題解決型の研究は年々必要性が高まっている。
<p>・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 2	目標通りの研究課題に取り組み、3件の成果公表、3件の品種登録申請を行い期待以上の成果を挙げられた。
<p>・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 1	限られた人員、予算の中、目標どおりの成果が得られるよう職員間で協力分担し実施するとともに、関係機関、現地生産者と連携し現地試験を行い効率的な研究推進に努めている。

### (今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 現場で使える成果を挙げるためには、現場ニーズを的確にとらえ課題化し、明確な研究計画のもと継続して実施していく必要がある。</p>
--

### (次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 中山間地域の農業現場は、気候変動、経済情勢等の影響から様々な課題が発生し、その情報収集と迅速な対応が求められている。このため、農業者、指導機関、行政との連携を密にし情報共有を図るとともに、研究課題として積極的に取り上げ、得られた成果は迅速な技術移転に努めていく。</p>
--

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果 など</p>	